

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2018（平成30）年 第42週（10月15日～10月21日）

## 今週のコメント

～RSウイルス感染症～手洗い、マスクの着用、咳エチケットが重要

### 定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに減少」

第42週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,883例であり、前週比6.4%増であった。報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、手足口病、流行性角結膜炎の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.1、1.8、1.3、1.1、0.7であった。

感染性胃腸炎は前週比4%増の616例で、南河内4.9、中河内4.2、北河内4.1、三島3.6である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は17%増の354例で、堺市2.8、大阪市南部2.2、大阪市北部・南河内2.1であった。

RSウイルス感染症は12%減の261例で、南河内2.8、大阪市北部2.0、泉州1.7である。

手足口病は44%増の226例で、泉州2.0、中河内1.6、大阪市南部1.5であった。

流行性角結膜炎は13%減の35例で、大阪市西部1.5、豊能1.4、大阪市東部1.3である。

また、インフルエンザは43%増の99例で、大阪市北部1.6、南河内0.5、三島0.4であった。

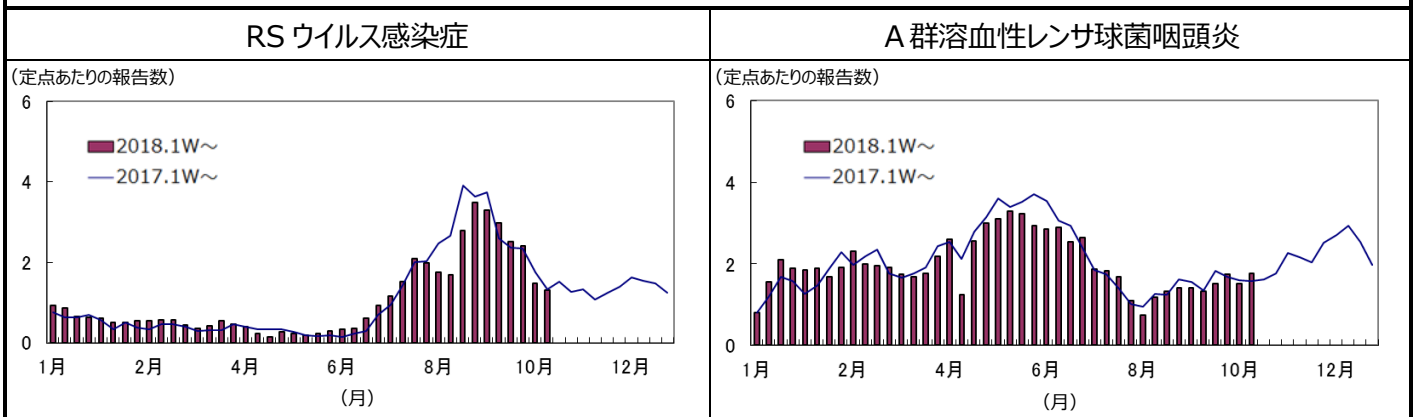


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2018（平成30）年 第42週 10月15日-10月21日）

第42週の順位	第41週の順位	感染症	2018年 第42週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017年 第42週の 定点あたり 報告数	2018年 第42週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.1	4%増	3.0	1歳_14%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.8	17%増	1.6	6歳_16%
3	3	RSウイルス感染症	1.3	12%減	1.3	1歳未満_41%
4	4	手足口病	1.1	44%増	0.7	1歳_32%
5	5	流行性角結膜炎	0.7	13%減	0.4	20歳以上_74%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.3	43%増	0.1	20歳以上_23%

## 第 42 週のコメント

～風しん～ 風しんの患者数は、2013 年の流行以降、年々減少していましたが、現在、府内でも風しん患者が急増しています。

### 全数把握感染症

#### 風しん

風しんは、潜伏期間は2～3週間（平均16～18日）で、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発しん症である。妊婦（妊娠20週頃まで）が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の障害をもつ可能性がある（先天性風しん症候群）。感染の予防には、2回の風しん含有ワクチン接種が有効である。特に、妊娠する可能性のある女性、妊婦や妊婦の家族と接触する可能性がある方、風しん含有ワクチンの定期接種が行われていなかった世代などに当たる30～50歳代男性について、風しんの感染拡大や先天性風しん症候群の発生を防ぐため、抗体検査やワクチン接種が勧められている。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

感染症の話：風疹とは([国立感染症研究所](#))

(累積報告数)

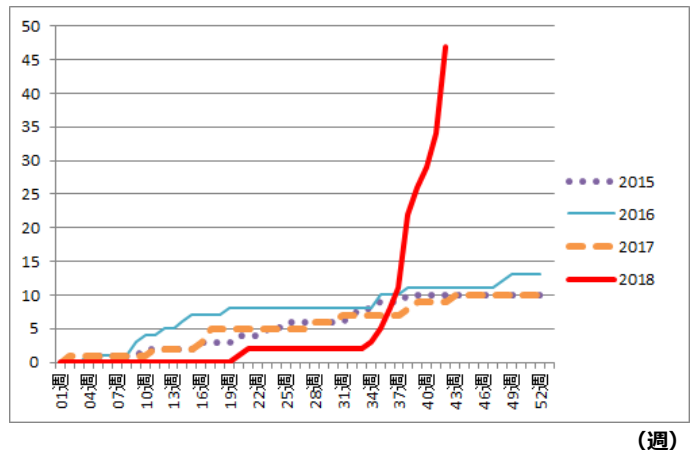


表 2. 大阪府全数報告数（2018(平成30)年 第42週 10月15日～10月21日）

\*）注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5	1	1					3	191
4類感染症	A型肝炎	1							1	42
	レジオネラ症（肺炎型）	2					1		1	112
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢	2						1	1	66
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5		1			1	1	2	155
	梅毒	15	3	1			2	1	8	962
	播種性クリプトコックス症	1					1			5
	百日咳	22	6		1	2	1		2	10
結核 (2018年8月分)	結核 新登録患者数：155名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 55名) (府内累積報告数 1,225名、内 肺・喀痰塗抹陽性 469名)									
麻しん、風しん	風しん 13名 (豊能1名、三島2名、北河内1名、中河内3名、大阪市6名、府内累積報告数47名)									

(2018年10月23日 集計分)